

別紙 1

論文審査の要旨

報告番号	甲 第 3203 号	氏 名	岡村 博輝
論文審査担当者	主査 木内 祐二 教授 副査 泉崎 雅彦 教授 副査 川手 信行 教授		
(論文審査の要旨) <p>オステオサルコペニアは骨粗鬆症とサルコペニアが併存している状態であり, それらを単独で有する場合よりもフレイルの発生リスクを高める. また, 栄養療法や運動療法の介入がサルコペニアの改善に寄与することが報告されており, サルコペニアの早期発見が大切である. そこで, 岡村らは閉経後骨粗鬆症患者 276 名において 3 群 (65-74 歳, 75-84 歳, ≥85 歳) にわけ, サルコペニア・フレイルとの関連性, オステオサルコペニアのリスクファクターについて調査した. 全群において, サルコペニアの有無と BMI に有意な相関が認められ, 65-74 歳の群では eGFR, HbA1c において有意な相関を認めた. 骨粗鬆症はサルコペニアのリスクであることが知られているが, 本研究により閉経後骨粗鬆症患者において, 特に 65-74 歳群で eGFR, HbA1c がサルコペニアのリスクファクターとなることが示唆された. 同年齢層の骨粗鬆症患者が腎機能障害, 糖尿病などの疾患を有する場合はサルコペニアを調べることでオステオサルコペニアの早期発見に寄与する可能性が示唆された. 本論文は閉経後骨粗鬆症患者におけるオステオサルコペニアのリスクファクターについて新しい知見であり、大学院学位論文 (博士) 審査基準を満たしており学位論文に値すると判断した。</p> <p>論文題名: Risk factors predicting osteosarcopenia in postmenopausal women with osteoporosis: A retrospective study (閉経後骨粗鬆症患者におけるオステオサルコペニアのリスクファクターの検討: 後ろ向き研究)</p> <p>掲載雑誌名: PLoS One. No.8, Vol.15, e020237454, 2020 年</p>			

(主査が記載、500 字以内)